

平成 19 年度日本認知症ケア学会・読売認知症ケア賞「奨励賞」



浜 田 きよ子（はまだ きよこ）

高齢生活研究所・所長

1950 年 6 月 17 日生まれ

【授賞理由】

浜田氏が取り組んできた高齢者の誰もが抱える日々の生活の困難さを道具を最大限に使って解決するという活動は認知症の人たちの在宅での生活を可能にしたばかりでなく高齢者全般の生活を豊かにするものである。その活動に対し、本賞を授与するとともに、今後ますますの活躍を期待するものである。

【略 歴】

1995 年 6 月～

高齢生活研究所・所長

2003 年 8 月～

(株)排泄総合研究所・代表取締役

2003 年 11 月～

排泄用具情報館「むつき庵」開設（所長）

【功績・社会貢献】

2003 年京都府上京区に「むつき庵」という排泄用具の情報館を設立。認知症の方の排泄ケアに取り組む。

2001 年より、京都で最初にユニットケアを導入した特別養護老人ホーム「ももやま」(京都市伏見区)において、排泄ケアの事例研究会を毎月行う。認知症の方で排便はいつもおむつの中、という A 氏など、困難事例を外部からも多くの方が参加し、ともに考えていくという研究会を毎月行う中で、おむつの中での排便は極端に減少したばかりでなく、認知症の方の排泄サインなどをともに考えていく機会となっている。

2004 年より 115 床の集団ケアタイプの特別養護老人ホーム真盛園(滋賀県坂本)においてふた月に一度行い、認知症の方へのトイレサイン、言葉がけなどについて外部の参加者も含めて議論して、ケアの向上に努めている。どちらの施設も、研究させていただいた利用者のかたがたは笑顔も増えて、食事面や排泄面さまざまな点から暮らしがすっかり変わっている。

2004 年より、京都での「認知症介護研究会」のメンバーとなり、ほぼ 4 ヶ月に一度、事例検討や認知症ケアについて検討している。